

さらば！荒川工業！

令和5年4月より学校名が「荒川工科」に変わります。このことにより、「荒川工業」定時制65年、全日制60年の歴史が「荒川工科」の1年目に引き継がれます。



私は、2年前の緊急事態宣言が発令された年に本校に着任しました。短縮授業と時差登校が継続され、学校行事もない、部活動もできない中、当時の3年生が着任早々の私に「何にもできないなんて寂しい。なんかさせてください」と言いに来てくれました。その時に、荒工生はエネルギーを内に秘めている。本当は色々なことにチャレンジしたがついていて感しました。

その後、他の都立高校が短縮、午前授業を継続する中、8時半登校、50分、6時間授業に戻しました。学校行事も工夫して実施するなど、その取組の全てに、皆さんの活動を支えようとする先生方と、その教えをしっかりと受け止め「がんばる」荒工生の姿がありました。本当に荒工はすごい！と感じています。

機会を用意すれば、皆さんの可能性は無限大だとも感じています。あとは、その機会をどれだけ活用できるかですね。荒工は、日本電子専門学校と包括的連携協定を結び、授業内で専門学校の先生が教えに来てくれたり、「放課後コンテンツ」で3DCG等の指導をしてくれたりしています。また、企業との連携で、ソフトバンクやFreee等で企業見学やプログラミング体験をさせてもらったりしています。さらに、内田人材開発センタには、ビジネススキルトレーニングとして年3回の特別授業を実施してもらいました。その他にもスペースワンによるドローンパイロットのライセンス取得講座も実施しました。このような機会に、積極的に参加し、目を輝かせている皆さんの姿は本当に頼もしく感しました。

そうした結果、都立専門高校の生徒15名を海外に派遣する東京都事業では、本校から3名が選出されました。また、今年度立ち上げたAI部は、予選を1位で通過し、本選では各部門で2位と3位の成果を出すことができました。

そんな格好の良い荒工生の活躍を、私は4月からは違う場所で見守ることとなります。最後に、学びは人との出会いです。「勉強が苦手」「自分には力がない」と自分が情けなく感することもありますよね。でも、それは、皆さんに力がないということではないかもしれません。たまたま、これまで皆さんにフィットする大人に出会わなかっただけかもしれません。だからこそ、荒工の先生たちとの出会いは「挑戦する」「頑張る」「できるようになる」に繋がるのです。社会の中で出会う大人は無限です。だから、自分には「内なる力」「未だ気づいていない力」があり、成長できると「誰よりも」信じてあげてください。必ずできるよ！ とっても寂しいですが、がんばれ！荒工生！さようなら！



「未来を創る！彩る！荒川